

二 讀者 の 聲 二

— 我 が 鐵 の 行 手 —

黒田泰造*

昨年懇親会の席上で、高炉方面の研究発表が少なく、もつと盛んになつて頂きたい、又我国情として砂鉄、硫化鉄、磁硫化鉄利用の促進等を願つて置いた。今年の講演会では八幡の和田部長を始め相当発表されて有り難いが、何と云つても私は鋼の基礎である銑鉄の良質、多産、廉価が国を救う所以だと堅く信ずるからである。

この頃各方面でヨークス比が0.8位となり（之も結構だが私は独り密に考えて居るのは製鋼方面で国として外来の石油に多く依存するよりも、高炉即ち大なる瓦斯発生炉とヨークス炉の両瓦斯の利用とタール製品等の経済的バランスを考える必要があるかとも思うが、よく考えて頂きたい。）同時に出銑量も高炉の単位容積に対し目覚ましく上昇した事も嬉しい極みである。和田氏は特に八幡でヨークスの粒度や灰分が良くなり且つバラツキの著しく少ない点、原単位責任者をきめらるゝ等の話をされた。昔の私等の居つた頃を思うと恥しい次第である。殆んど理想的である高炉成績の良いのは銑石の粒度、強度及び銘柄の変更を少なくし、ヨークスの向上と共に焼銑使用率の増した事も良き結果を齎したのだから。それにしても粉末の多い銑石や質の悪い石灰石又操業方法に罪をきせず高炉炉況が悪いと直ぐヨークス、ヨークスといぢめられた昔を思い出さずには居られない。同時に国内炭のみの二瀬三池配合ヨークスを以て100t内外の高炉で、やれ非常羽口だ、片ペリだと夜中にでも電話でしげしげ起され、おちおち眠れなかつた高炉技術者に対しても同情心は湧くのである。

技術は進歩した。和田氏は東田第六高炉（400t）では焼銑50%で月平均、出銑548t、ヨークス比0.695 或いは0.69、灰分13%、平均粒度73mmを示し、洞岡では一炉の生命160万t（米国の平均）を考えられて居る。以前500t炉で120余万噸を越した時私共の造つた煉瓦であつたので大いに喜んだが（其頃の米国製品よりも優れていた）敗戦後原料粘土がまゝにならず米国品を勧めたが残念であつた。今日は原料粘土が来るから結構である。

焼銑も時の服部部長から煉瓦工場で試験を命ぜられたが、其後、日本製鉄での焼結技術を人から非難された事もあつたが、年月と共に進歩したものだ、恐らく此頃は焼結機の落口で粉末がもう々と立ち上つて居ないであろう。又和田氏は云う、我国の技術は欧米に負けないと。此の意気と其の数字に対し私は心から感謝するのである。希くば百尺竿頭一步を進めて英米の様に \$ 40~50 で銑鉄を造つて貰いたい。（明治の終りには間接費を除いて東田で \$ 19 位であつた）。

さばれ困つた事は原料代と1t当りの労力である。之は下手な戦争をやらされたお蔭であるが、今更泣言を云つても始まらない。吾々の力で1弗360円を上げる処か早く一弗を2円に下げねばならぬ。

先づ私は歐洲で見たり、或いは中村製鉄所長官があられた様に社長、所長はフロックかモーニングでまじめな風をされ、以下の方はカーキ色か茶葉服で身を以て愛社心、愛国心を振り興し、戦勝した英国に劣らぬ耐乏生活に入る。そして一般社会にも範を垂れて頂きたい。以前八幡で12時間勤務を8時間に主張した私ではあるが、独逸も敗戦後9時間にしたと聞く（ストライキも殆んどない）。此際10時間にする事も如何？現に実行されて居る所もある。炭坑でも戦前13時間位の所もあつたが現今炭坑の実働時間は5時間強と聞くがそれでよいのであろうか。か弱い紡績女工すら現在実働8時間である。高炭価も解決されねばならぬ。

次に各社で平炉方面に於けるt当りのCal（約80万）や或いは煉瓦も著しく減じた。庄延の方面にも歩留を細心に注意されて居るのにも敬意を表したい。尙、序乍ら平炉其他の方にお願ひしたいのは曾て本誌で陳べた煉瓦の形である。規格品20%、order made 80% を之と反対に米国並に規格品80%にして頂きたい。かくて煉瓦の形や質が良くなり廉価となる。私は八幡で各製鋼工場毎に煉瓦の形の異なつたのに困つて居た。高炉も大正の初め米国より痛つて200に近い形を1/10位にして貰つたが、此頃は6種位と聞く。

汚れたる政界や実業界を見て真白く気高き富士ヶ嶺の様な尊き技術者、研究者よ、須らく独英の様に耐乏生活に入り、誠意と努力に依つて産業を隆盛ならしめ、輸出を増大し、以て鉄を通じて国を救つて頂きたい。

（私鉄のストライキの日誌之、25/4/29）

* 本會評議員